



1974年生まれ、福岡県出身。明治大法学部卒、慶応大大学院政策・メディア研究科修士課程修了。2017年から現職。

新たな現場教育模索

専門知識とフィールドワークを結び付けた「現場体験による教育」が大きな研究テーマだ。ラオスとタイの首都バンコクを2010年からゼミ生と訪れている。2国を選んだのは「アジアの途上国と大都市バンコクのギャップを体感してもらうため」。そうした海外訪問している。観光が復興

うすの センセイ

東洋学園大
グローバル・コミュニ
ケーション学部教授
やすまつのりゆき
泰松範行さん

に果たす役割は大きいと実感し、「観光と地域」を研究するため、石巻市を中心に東北各地に足を運ぶ。

国内外それぞれの「現場教育」には手応えがあったが、近年は新型コロナウイルスの影響で、積極的な活動をしたという学生が減ったと感じる。「学生の発想が変わってしまった。経験を引き継げず、深刻な状況だ」と懸念する。

一方でゼミ生たちが、国によるインバウンド(訪日外国人客)の受け入れ拡大や国内の「全国旅行支援」推進を受け、卒論のために観光客の動向分析などに取り組む姿も目の当たりにしている。「教育方法もコロナ前の『平成モデル』でなく、コロナ後の『令和モデル』を考えなければいけないときだ。逆に良いチャンスかもしれない」と受け止めている。

【内山勢】